

## ❖❖❖❖❖❖❖ 教材開発へのアプローチ ❖❖❖❖❖❖❖

S-VHSやED ベータタイプのビデオ一体型カメラの出現により、学校行事の記録や自作ビデオ教材の開発が、これまで以上に積極的に行われると思われる。それは、カメラの小型軽量化による取材（撮影）の簡便さに加えて、忠実度の高い高画質の映像が得られる。また、簡易編集機能をもつビデオまたは電子編集機の普及によって教師が手軽に編集を行い、意図する教材を制作することができるからである。

教材開発を行うには、利用する教育機器の特性を見極め、効果的に利用する視点を明確にし、その長所を引き出す工夫が必要である。

それらを次の様にまとめてみた。

- ①映像に音声に伴うので、情緒性、迫真性を伝えられる。
- ②学習を進める学校、クラスの児童生徒の実態に即したものに工夫できる。
- ③市販教材では不可能な地域素材を生かすことができる。
- ④教師や児童生徒の姿を撮り込めるため、親近感や興味・関心が生れ、学習意欲が喚起される。
- ⑤収録（編集）後すぐ再生できるので、新鮮度の高いものとなる。
- ⑥必要に応じて教材の一部修正や改善をすることができる。
- ⑦教材の長さは利用目的に合わせて自由に決められる。
- ⑧制作は比較的簡単であり、誰でもできる。

これらの特性を踏まえて、事前に編集の基本技術をマスターしておく、撮影にあたって、正しいカメラワーク、ライティング、マイクワークなどが身につく、撮影に関する見方や考え方が変わり、ひいては、素晴らしい映像表現が可能となる。

とくに、映像教材は画面から訴える映像の出来不出来で決まる。企画・構成の段階から画面の組み立て方やつなぎ方・映像の表現方法などに細心の注意を払い制作することが望ましい。

